

# 将来を見据えた町づくりは

## アンケート調査で意見を集約し、生かす

池田健一郎 議員



**問** 県では9月に、10年後の学校をテーマにした、県政タウンミーティングを行っている。

町においても地域住民の力を活かす意見からも、将来の町づくりを目指した、町政タウンミーティングのような方法で、町民から広く意見を求める場をつくつたらと思うが、町の考えは、

**産業経済課長** 町の長期振興計画でも、直売所の運営や、農産物加工施設など、運営組織の充実を図りながら、道の駅も含め検討することになっている。また事業執行するため、国・県に打診するため、素案を検討した経過はある。今後、経営を担う人材、組織、ネットワークができるか、収益部分も含め、適地、規模、各グルー



プ、関係する農業団体にも働きかけ、事業の推進をしたいと考える。

**町民課長** 庁内に子育て支援センター建設検討会議を設け現在検討中である。ハード面だけでなく、ソフト面での様な支援が必要か、住民の多様なニーズに応えるべく検討を重ねてまいりたい。

**企画財政課長** 過去に地区町政懇談会を開催したが、地域の事業要望を伺いする会になった経過があり、参加される年代の偏りや、声高に強く主張される意見に流されてしまうというような課題がでてきた。

町としては、世代や地域を問わず、多くの方が率直な意見を記入しやすい、アンケート調査を実施し、町民皆さまの意見を集約し、まちづくりに生かしていきたい。

# 住宅リフォーム補助金制度の継続を

## 24年度当初予算に上程

市村千恵子 議員



**問** この事業は、地域の大きな経済効果につながると町も認めている。

来年度も継続し、現行の工事額30万円以上を引き下げて、より多くの業種の仕事おこしや、より多くの町民が利用できるような実施すべきと思うが町の考えは、

**建設課長** 11月末日現在で補助金の交付決定件数は、112件、交付決定済み額が1千832万円、施工費の合計額は、約1億3千万円。町内業者の40業者が施工している。補助金に対して約7.1倍の事業が実施されており、町内の大きな経済効果につながっている。

リフォームの内容は、外壁・屋根・水回りなど複合での申請が61件、単独で外壁の修繕が20件、屋根の修繕単独で10件、窓・サッシも含み単独修繕が8件、台

所で3件、浴室3件という状況である。

町内に指名参加願いが出ている建築に関わる業者3社からは、7件の申請が上がってきている。

長期振興計画の今年度の実施計画に来年度1千万円の事業計画の案を提出している。対象工事費30万円以上を来年度は、20万円以上に10万円引き下げて対象を広げたい。補助率の20%と上限の20万円は、事業の根幹にかかわるので変更しない方針で、理事者の了承も得ている。

来年3月議会に、平成24年度の当初予算として上程していきたい。



施工前



施工後

埼玉県久喜市「指定管理者による共同作業所の運営」 11月21日～22日

神奈川県南足柄市「南足柄げんき計画」

当町のやまゆり共同作業所の運営を指定管理にする予定とのことで、担当委員会として、すでに共同作業所を指定管理者で運営している、埼玉県久喜市へ研修に行った。

久喜市の指定管理者の選定については、平成19年に随意指定で久喜市社協に期間は、24年3月までの5年間であった。

23年7月に募集要項の配布、8月申請書の受付。社協1件だけだったので、随



久喜市庁舎内の喫茶室

意指定とした。

市内には他に4つの公設施設があるが、そのうちのひとつは民間会社が指定管理者になっている。

研修に行ったのは「げんきの木共同作業所」で、通所者は19名。利用料は無料だが、食費は一日300円通所者の負担となる。

作業は、ポルトセット・縫製・缶回収・米袋底紙貼りなどで、収益金は通所者で能率給配分としている。

運営補助金は、久喜市と埼玉県を合わせ、22年度約4千400万円、23年度は概算で約5千万円。

ボランティアが、年間で延べ約200人が協力している。2日目は、神奈川県南足柄市の「南足柄げんき計画」について研修した。

平成17年3月からスタートして、市内のげんきサポーターは75名になり、地域げんき作戦会議は市内34自治体のうち、5自治体にて



南足柄市「げんき計画」の説明

きている。

人生を4つのライフステージに分けて、目標を作り課題を実践していく。すべての市民が、生涯健康やかに生活を送れるようにする。

これらの研修から、当町でも指定管理制度の推進と町民の健康増進のために提案し、参加してよりよい町づくりを進めたいと感じた。

総務福祉文教常任委員長 古越 日里

千葉県香取市「官民一体となったまちづくり」

茨城県笠間市「笠間クライガルデン」

香取市は千葉県北東部の利根川を挟んで茨城県と接し東京に70km、千葉市や成田空港に近い人口8万5千人のまち。

佐原には国宝の伊能忠敬の資料や国指定重要無形民俗文化財「佐原の山車行事」国選定「重要伝統的建造物群保存地」がある。

往時は江戸への生活物資の供給地として舟運業で栄えた水郷の商都で、その華やかさは江戸勝りだったといわれた。



香取市の町並み

町おこしは平成3年の佐原大祭の山車見物に有料観覧席を設けたところ、売れゆきの反響に驚き地元に残り伝わる宝物の価値に目覚め建造物の保存や修復利用川や街の清掃など住民総出で行なっている。

行政も町並み保存事業助成金制度をつくり、金額は50万円～70万円までを補助し、民と一体となり修景に取り組んでいる。民の郷土を愛する強い意識と行動力に官が強力に支援し、後世に残し伝える姿が感じられた。

御代田町も自分達の生活空間や伝統文化、遺産など再認識し、一考を加え官民一体となり町外に売り出す必要を感じた。

笠間市は茨城県中央部に位置し人口8万2千人、首都圏から100km内の自然豊かな市で市内の丘陵地4万㎡に「農芸と陶芸のハーモニ」をテーマに滞在型市民

11月7日～8日

農園を開設。3グループ以上の共同利用で年間契約貸与をしている。

御代田町も検討するならば特徴あるクライガルデンを目指す必要がある。

町民建設経済常任委員長 古越 弘



笠間市クライガルデン